

2014.3.14

TSUMUGU BITO

「ヤングケアラーの存在」 ～見えてくる課題～

NPO法人 介護者サポートネットワークセンター・アラジン
一般社団法人 日本ケアラー連盟
牧野 史子

今日の話

- 1、イギリスのヤングケアラー
- 2、みえてきた日本のヤングケアラー達
- 3、潜在的な課題は・・・
- 4、課題を解決するために越えなければならないハードル



介護者＝「ケアラー」と呼ぶ

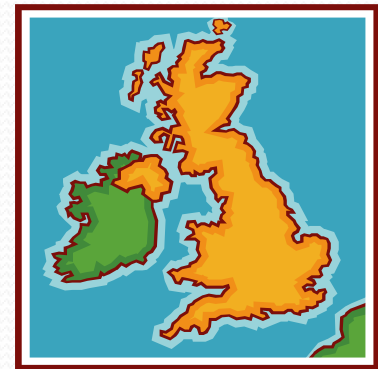
“ケアラー”とは(定義)

身体的あるいは精神的な疾患や障がないしは
高齢に由来する諸問題を抱える家族、親戚、友人、
隣人に対し、同居、別居を問わず、常時または

随時、職業(ケアワーカー)としてではなく
無報酬で介護をする人

1、イギリスのヤングケアラー

～ヤングケアラー問題を理解するために～



イギリスにおける「ヤングケアラー」

“ヤングケアラー”とは

イギリスでは、「ヤングケアラー」という言葉は、
身体的な病気や精神的な病気、障がい、薬物
濫用などを抱える家族のケアや精神的なサポ
ートをしている、18歳未満の子どもや若者を指
す。

* 平均年齢・・・12～17歳

* 「ヤングアダルトケアラー」・・・16～25歳

イギリスのヤングケアラー支援

- 1980年代の後半
- 1990年代 全国規模の調査の実施と支援
- 2001年 国勢調査 ヤングケアラー 17万5千人
- 2003年 調査報告 (ラフバラ大 ヤングケアラー研究班)

Young Care in the UK:the2004report

(6178人のヤングケアラーデータ分析)

ヤングケアラー支援団体 設立17年



子ども協会 包摂プログラム【The Children's Society】

ヘレン・リードビターさん

ヤングケアラーの担うケア

【ケアの内容】

- 家事援助(料理・買い物・掃除など)
- 日常生活における一般的な介助
(薬の管理・着替え・外出・移動の介助・リハビリ)
- 情緒面のサポート(励ましなど)
- 入浴・排泄などの介助
- 妹や弟の世話や親代わり
- その他(金銭の管理、病院への付き添い、通訳など)

【対象と症状】

(対象) 親やきょうだい、祖母、

その他の人

(症状)

身体障害

感覚障害

知的障害

長期にわたる病気

HIVやその他のウイルス

薬物やアルコール依存

精神的な問題

ケアを担うことによる

ヤングケアラーへの影響

- 親子関係の逆転
- 教育問題(遅刻・早退・欠席・不登校など)
- 社会生活と友人関係(社会的孤立)
- 経済問題(貧困など)
- 人格形成と就職問題

⇒就学・進学、就職、社会参加の機会の
侵害されたり、奪われたりする



2、みえてきた日本のヤングケアラー達 ～介護者支援の活動の中から～

3、潜在的な生活課題・・

～彼らの語りからみる

目にみえない生きづらさ～

彼らの語りから ～気づかされること～

《周囲のサポートや理解不足》

「先生に話したけれど、(介護のことを)理解してもらえなかった。」

《体調不良》

「耳鳴りや吐き気、頭痛。気力が出ず、気持ちが沈み祖母にあたってしまった。あとで後悔しストレスになる。」

「今でも3時間で起きてしまう。」「今でも耳栓が必要。」

《社会的孤立》

「自分の生活とかけ離れたことを話すのはとても疲れた。」

「自分の生活や将来について話す場所がなかった。」「楽しい学生生活はまったくなかった。」

《母との関係》

「お互いを思いやる余裕はなくぎりぎりだった。」

《その他》

「先日兄が甥っ子のオムツ変えをするのを見た時に、オムツを変える人生の順番 (実子→親又は祖母)がある事に気づいた。(父・祖母介護 30代男性)

日本におけるヤングケアラー調査

○ 医療ソーシャルワーカーへのアンケート調査

(2013成蹊大 渋谷智子)

* 東京都医療社会事業協会(402人回答)

- 142人(35.3%)が、これまでに18歳以下のこどもが家族のケアをしていると感じた事例がある、と回答。

ケアの内容

- | | | |
|-----------------------|----|-----|
| 1、家事 | .. | 70% |
| 2、きょうだいの世話 | .. | 46% |
| 3、情緒面のサポート | .. | 44% |
| 4、通訳・病院への付き添い・請求書の支払い | .. | 37% |

* イギリスのヤングケアラー 支援プログラム

● ヤングケアラーの発見

- 学校への働きかけ • 教材や情報の提供
- 疾病・障がいをもつ子のきょうだいへのアプローチ
- 居場所・つどいの場づくり • 子ども向けのWEBサイトの開設
- イベントの開催 「ヤングケアラーフェスティバル」1500人
生活支援・学習・進学支援・ゲーム・旅行など



* ケアラーがアセスメントを受ける権利が保障されている

どんな福祉サービスも、子どもの過度なケア役割に
依存してはいけない

4、課題を解決するために

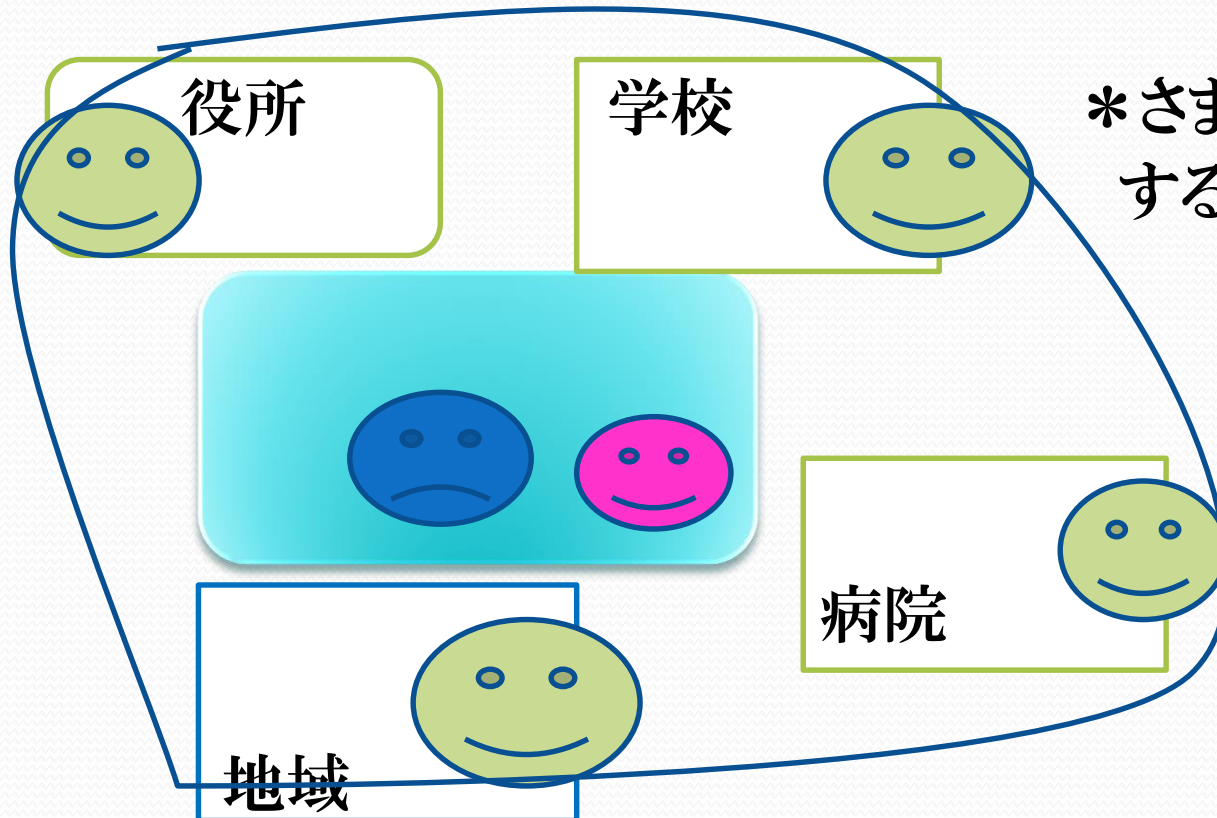
～まずしなくてはならないこと～

越えねばならないハードルがある

日本がこれから取り組むべき課題(1)

～イギリスからの学び～

1. ヤングケアラーを発見する目線・環境づくり



*さまざまな機関が連携することが不可欠！

*孤立しないための
さまざまな支援や
情報提供を身近
な人から。

日本がこれから取り組むべき課題(2)

～障壁を超えるために～

2、実態調査を実施するために

・教育と医療の壁

3、法体系をつくる

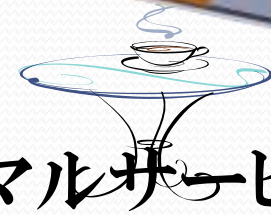
「介護者支援法」

・議連とロビー活動

4、マネジメントおよびファンドレイジング人材
の確保

* ケアラーの(ステップ)ハウス構想

- 空き家を活用する(小学校区に1)
- 運営はNPOなど市民で
- “ケアラーライフコーディネーター”を置く。
- **ケアラーのアセスメント**を実施。
- 機能は、カフェ・サロン・相談・インフォーマルサービス情報・休養室(休憩)・アクティビティ・介護研修・就労支援(職業紹介・訓練)・生活支援サービスなど



ケアラーを多面的に支援する

- **地域の地縁組織・介護事業所**等の推進ネットワークづくりをし、地域に根ざす。

《27年度～ 基金や空き家活用事業でできないか》